



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年11月1日

11月号・第190号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



ニホンミツバチが来た（実りの森：ソバ畑）

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます



URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	癒しの散歩道 & ならやま茶論	9
多土済々	2	ならやまプロジェクト	10
Monthly Repo.ならやま	3	行事案内part 1	11
里山の今	4・5・6	行事案内part 2 & 行事予告	12
9月自然教室・報告 & 私のふるさと	7	幹事会報告・編集後記	13
例研・一泊研修会・報告	8		

壮春力歩

会長 鈴木 末一

◆ ミツバチとの共生

先だって、美味しい蜂蜜を賞味していただきましたが、100%純粋な蜜の味は、忘れようにも忘れることができませんね。

涼風心地よい季節になりました。これからのミツバチたちが、どのような過ごし方をしていくのでしょうか。ならやまでは蜜をつける花も少なくなってきましたが、今年はいまソバの花が真っ盛りです。ソバクラブやエコファームや景観グループ、そして協働作業に携わっていただいた皆さんの努力の甲斐あって、

近年になくソバが順調に育っています。働きバチたちが、その蜜を求めてソバ畑を飛び回っています。



秋雨前線の影響で長雨が続きたりしていて、働きバチたちは、巣の外に出られません。それでもソバやセイタカアワダチソウなどの蜜や花粉、プロポリスとなる木の樹脂などを集めてきて、巣の中に蓄えるようです。そして、食料が少なくなる冬に備えて、働きバチたちは、女王バチの産卵を徐々に控えさせるようにしたり、オスバチを巣の外へ追い出したりと忙しい日々を送っています。

分封した3箱の中で、1箱は分封の時期が少し遅かったようですので、養蜂家のIさんは「越冬させましょう」とおっしゃっています。

それでは、どのようにして寒い冬の時期を過ごすのでしょうか。決して冬眠するわけではないのです。産卵を休んでいる女王バチを中心にして、働きバチたちが体を寄せ合いながら、蜂球(はちだま)をつくっています。この時、細かな羽ばたきをして熱を発生させて、暖めあっていますので、巣の中は30度ぐらいに保たれるそうです。冬の間は、蓄えておいた蜂蜜が大切な食料になります。

◆ ジョロウグモから新薬開発?!?!?

庭や畑の木々のあちこちに、ジョロウグモが巣を張っています。中央にメスが陣取り、巣の端には数匹のオスが、メスの方をじっと見つめるようにして止まっています。

ちょっと巣を揺らしますと、メスのジョロウグモは驚いて端の方へ逃げてしまいます。逆にコバエなどの獲物がかかると、すぐさま寄ってきて、あっという間に食べ付きます。獲物が巣にかかったのかどうかの判断は、巣の振動数などで識別するそうです。

しばらくの間観察をしていますと、メスが虫を捕食した時、周囲にいたオスの中で強そう(?)なのが、メスにすばやく近づき交尾を試みます。ところが、メスの視力は非常に弱いようで(ほとんど目が見えない)、交尾のために近づいたオスも獲物かと思って食べてしまうことも多々あるようです。従ってオスは交尾が終われば逸早く脱出しなければなりません。

交尾も命がけです。



ジョロウグモの成虫メスは、全体的に黒地に黄色の模様で、腹部には赤色、背部には薄青色か黄色、手足は黒色と黄色の縞模様があり、タイガース・カラー(?)をしているので、見つけることは簡単です。成虫のオスは褐色、脚には黒と褐色の縞模様があります。余り目立った色をしていませんが、巣の端の方を見ますと、交尾のチャンスを探る複数のオスを見つけられます。

ところで、日本においては、噛まれて健康被害を受ける毒グモはほんの一握りだそうです。ジョロウグモが有する毒は「JSTX-3」というもので、人体には特段の影響がない程度だということです。興奮作用のある神経伝達物質のグルタミン酸の働きを鈍らせる効果があります。これを製薬メーカーや研究機関で、人間の薬として役立てる研究がされているようです。

新薬の開発が期待されますが、ジョロウグモの一生は、春に孵化して7か月でしかありません。研究もスピード感が求められます。



長年 こつこつ 田中 暉英さん

顧問 阿部 和生

シニア自然大学を修了された田中さんは、同期生3名の奈良出身者と共に「奈良・人と自然の会」設立総会にご参加されたメンバーです。「野鳥が得意の長野さんや小山さんは今どうしているのだろうか？」と振り返られます。会長に選任された、故川井秀夫さんから幹事にと強く要請があったのですが、ご家庭の事情で固辞されたと聞いています。「いこま棚田クラブ」の支援事業も、クラブの名前が決まらぬ最初からの支援活動者として活躍しておられます。切り倒され^{ほうてき}抛擲された樹木の上に雑草やクズが茂り、マムシにおびえながら「手鎌」で着手したところからの同志です。

スタートした「会」は、笠置から曾爾高原→香落溪を結ぶ奈良県下東海自然歩道を12か月かけて自然観察しつつ踏破する企画が始まり、そのころはよく参加されていました。この企画は、奈良県外からの参加者増となる好評を博したもので、入念な下見があり、そのうえで道路左右の植物や野鳥を観察する内容でした。「生駒もこの観察会も起伏に富んだところを歩きますから膝をかばいながらの参加でしたよ」と述懐されます。全くそうした事は素振りにも見えなかったと思うのですが、その頃からの持病とお話を聞きびっくりしました。「ならやま」での活動では、現在もエコファームを主にしておられます。

キョウヨウとキョウイクを大切にしています



よと笑い飛ばされます。“ならやま”はもちろんのこと弓道、卓球、バドミントン、などなど多趣味で膝をいたわりつつ毎日出掛け 身体を動かすこと

に力点を置いておられます。

「“ならやま”は良いですね ベースキャンプができ、そのモットーとする『明るく！楽しく！無理をせず！』が性分に合い、とても居心地がよく好きです。健康が取り柄だから、日常の生活にも気を配り微力であってもできるだけ長い期間、会の活動に参加したいと思っています」と心意気を話して下さいました。嬉しいですね…。

故郷を離れ、横浜に拠点を置く人生を歩んでこられました。90才越えて一人住まいの父君が奈良におられたので、定年退職を機に単身でUターン、故郷に戻られました。大変な決断ですね。以後102才で天寿を全うされる12年間、ご一緒されたそうです。ご高齢の父君は健康生活で介護ということはあまりなかったそうです。でも日々の基本生活を支える毎日は、暉英さんの日常生活を制約したことはあったでしょうね。「対外的に責任を持つことはできるだけ避ける」という心づもりでいたので、いつの間にか文章を書くことも嫌、煩わしいことはしないと、自由な生活にどっぷり浸ってきた、と生活信条を話されます。これからの生活も「無理せず！」でいきます、と念押しされました。

健康体で過ごすために心身共になまけさせないことを心がけておられます。そうした事も多趣味な活動に繋がっているのでしょう。ご自身の膝痛も身体を動かすことにより現状維持となり、悪化を防ぐ為にも起伏のある里山林活動や観察会を避け平坦地での行動にしておられるのです。

横浜でのご家族も独立、今は奥様との二人暮らし。今日行く^{きょういく} ところがある、今日用^{きょうよう} 事があるという生活を意識して作っておられるからでしょうか、これまでの既成の年齢イメージとは違う若さをお持ちです。

多くの仲間と共に楽しみつつの農作業、ならやまは多様な人々に愛されしっかりと支えられているのだな……と痛感しました。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

9月29日(金) 振替活動 晴れ 44名

少ない参加者だが、各リーダーの指示のもとに活動も予定通り行われる。秋らしい、爽やかな天気も後押しをした。10月も、イベントが目白押しだ。打ち合わせでは、こういった行事である研修会やイベントの開催連絡のほか、協働作業の予告が行われる。里山Gは枯死木の伐倒と薪割り、エコGはナスなどの収穫やカボチャ畑の整備を中心に、そして景観Gは西池と水田周りの草刈りに取り組む。また、ビオ班はレンコン池やタナゴ池の整備、花班はヒヤクニチソウの撤去など、そして、パトGは4コースの巡回のほか観察路の整備に汗を流す。

**10月5日(木) 活動 晴れ 66名+2名**

ぶた汁再開。そして焼き芋も供される。いよいよ食欲の秋スタートといったところか。朝は協働作業の松の下草かきとアダプトプロジェクトのごみ拾い、食事後には各Gのミーティングが行われ、忙しい10月のスタートとなった。また、東大阪役所から職員2名が来月実施予定の行事の下見に来訪。あちこちを見学したり、担当者と意見交流を行う。本日から2名新入会員。芋ほりイベントも近づき、準備などで各Gとも大忙し。里山Gはイベントの準備、エコGはイモのためし掘りや竹林の除草、そして景観Gはイネやソバのはさ掛け用の竹の伐採を行う。また、ビオ班はレンコン畑の拡張と池の清掃、花班は葉ボタンの植え込み

とヤマボウシの植え替え、そしてパトGは1コース巡回のほか3コースの笹刈りに取り組む。

**10月12日(木) 活動 曇り 60名+12名**

不安定な天候。朝礼後はなんとか回復し、野外の活動には最適な一日になる。本日外部からの来訪者などの紹介や昨日の高知方面への研修旅行の報告が打ち合わせで行われる。昼にはぶた汁や枝豆、栗が振舞われる。都市緑化機構や花王から2名来訪。加えて、近大から2名、シニア生8名と賑やかなサイトになった。また、14日実施予定の芋ほりイベントは天候不順が予想されるために21日への延期が決定。里山Gは薪棚準備や薪割り、エコGは大根の間引きや野菜類の収穫、景観Gは佐保自然の森や実りの森の草刈りに取り組む。その他ビオ班はレンコン畑の拡張整備や水生生物調査、花班はハナナスの撤去など、そしてパトGは観察路の草刈りに励む。新入会員1名。

10月20日(金) 振替活動 曇り時々雨 42名

悪天候の中の振替活動になった。打ち合わせの途中から雨が降り出したが、途中ではいったん雨も止み、少ない参加者ながら各Gとも予定された活動に取り掛かる。しかし昼前後になって再び雨が降り出し、お昼までで本日の活動は終了。また、気にかけていた明日のイベントも天候不良が予想されるため中止となった。里山Gは薪割りのほか工作材料の準備、エコGはナスビ撤去や野菜の収穫、そして景観Gはイネやソバのはさ掛けの準備に取り組む。加えてビオ班はレンコン畑の整備、花班は秋花施肥、ギボシの植え替え、そしてパトGは3コース巡回と笹刈りを行う。

里山グループ

池田 信明

◆春日山（奈良公園）の草木の悲鳴が聞こえる。

ならやま爺：春日山爺さん久し振りで。奈良公園辺りは外国人観光客で随分賑やかそうですね。

春日山爺：賑やかどころか、此处はどこの国かと錯覚しそうですね。ところで、奈良・人と自然の会が総理大臣賞を受賞されたそうで名誉な事ですな。

ならやま爺：春日山爺さんは今も奈良公園辺りを時々徘徊していますの。近くに世界文化遺産の重要文化財や春日山があって良いですな。

春日山爺：外からそう見えるだけ、今の奈良公園は、雑草が茂る事も無く、巨樹も残っており、緑も濃く芝地も綺麗だし、観光客は喜んでいるが、ちょっと春日山に入っていくと、寂しく悲しくなるよ。春日山のシイの巨樹はナラ枯れ病で次々に枯れ倒木、ギャップではシイ、コナラなどの幼樹は発芽して



(春日山のナラ枯れ)

も育っておらず、鹿の餌になっていると思われ、50年後の春日山はどうなっているのか想像すると怖くなりますわ。今の状況を放置すると公園周辺は鹿の不嗜好性植物のナンキンハゼ、ナギ、アセビ、イヌガシ、イラクサ、イワヒメワラビ、ナチンダ、などが我が物顔で茂り、世界文化遺産と言うのも恥ずかしい。鹿が観光客に群がり鹿せんべいをねだるだけの風景の、つまらない観光地の奈良になるかも知れないですな。

ならやま爺：そうですか、ちょっと寂しい話ですな。そんな話を聞くと、ならやまの里山で育つ草木は幸せですな。今は、ナラ枯れの被害も大分終息して来て、植樹や実生の幼樹も育っており、今の状態なら、将来も豊かな里山が守れそうですね。ただ、数年後には招かざる客の鹿や猪が、ならやまに来ない事を願いますよ。



エコファームグループ

富井 忠雄

◆秋の風物詩「芋煮会」の里芋について！！

10～11月になると東北地方などで芋煮会が開催されます。その中の主役が里芋です。

当ならやまでは、4月に種イモを植え付け、梅雨時、猛暑などを通過して今は大きく育っています。その里芋は、連作は嫌いで日当たりが良く水持ちの良い肥沃な土壌で育っています。

原産地（タロイモ）はインド東部からインドシナ半島で、日本へは稲より早く縄文時代に入ってきたと言われています。

栄養素はデンプンが主成分で、タンパク質、炭水化物、ビタミンB群、カリウムなど含み低カロリー植物繊維も豊富に含まれていて、腎臓病、糖尿病、老化防止、便秘、下痢、癌や潰瘍の予防に効果があると言われています。

当フィールドでは3種類の芋を植えています。甚五右エ門芋：山形最上川の森一家が室町時代から550年間一子相伝で継承されてきた里芋で、粘りがあってクリーミーな芋です。当ならやまでは5～6年栽培しています。

越前大野芋：大野地区で米作の代わりに昭和45年頃から本格的に栽培が始まりました。（大野在来）品種は葉が垂れてないのが特徴で煮るほどに肉質の締まりが良く崩れにくく餅とした食感が特徴です。

海老芋：江戸時代長崎から持ち帰った種を栽培したのが始まりです。また京都中心に古くから作られ京芋と呼ばれ、反った形や縞模様が海老のように見えることからエビ芋と言われています。粘りがあり、締まった肉質で良い風味と少し甘みがあり、色も白くて高級食材として扱われています。京料理の「芋棒」が有名です。

今年もこれらの芋で芋煮会を行うのを楽しみにしてください。



(里芋)

景観グループ

千載 輝重

里山の今



パトロールグループ

菊川 年明

「草刈り隊」ともよばれる景観G整備チーム。まさにその名の通り、作業の8割がたは草刈りであるが、夏は雑草の勢いになかなか追いつかない。

日頃のテニスで炎天下には慣れているつもりだったが、夏の草刈りは想定外に大変だった。なぜだか考えてみた。

ならやまの他のグループメンバーからも草刈り隊はよく仕事するね、との言葉を聞く。なぜそんなに一生懸命やるの??そこに雑草があるから!

目の前にはびこる雑草を見ると草刈り機のエンジン音が高まる。雑草を切り飛ばす爽快感ときれいに刈り取った跡の達成感から、あと少し・・・もう少し・・・の連続でついつい時間を忘れて作業する。そしてようやく一区切りついたとき、体力の消耗に加えて、茹だるような暑さと汗でベタッと肌にへばりついた作業着に改めて気付く、次の作業に立ち上がれない。つまりところ、どうも連続稼働時間管理ができていないらしい。

10月に入り、少しは雑草の勢いも弱まって、草刈り隊と雑草とのパワーバランスも何とかとれつつある。一方わが身は、あまり夢中になりすぎたのかテニス肘(自分ではテニスのせいではないと思っている?)と五十肩(かなり若返った?)を併発し、このところ気持ちは50%稼働くらいに。これを機に適切な稼働管理に心がけよう。

生い茂る雑草の中にも、ところどころに疲れを癒してくれるような可愛い花が咲いている。「雑草」という名の植物はないのだなあ・・・と思い起して作業の手が止まる。きれいなものだけ残すのはエコヒイキかな?



(刈り残されたキバナコスモス)

夏が終わり、お昼に味噌汁の香りが漂う。明るく、楽しく、無理をしない草刈り隊に、癒しと安らぎが訪れる。

カシノナガキクイムシによるコナラの枯死被害はこのところ沈静化した、この被害によるコナラの倒木や枯死木からの落枝が観察路の随所に見られるようになった。

活動日にはパトロールグループのスタッフが輪番で観察路の巡回を行っているが、倒木や落枝を見ない日はない。手鋸などで対応できるものはその場で処理しているが、手に負えないものは里山グループにチェンソーで処理してもらっており、最近は倒木や落枝のおそれのある木を事前に伐倒してもらっている。

コナラの枯死によって、林の上空にぽっかり穴があいたようになり、大きな青空が望めるようになったところが随所にできている。このようなところでは陽当たりがよくなって、草や笹がものすごく繁茂するようになり、刈っても、刈っても直ぐに草や笹が生い茂り、作業はイタチごっこになっている。

しかし、一方で陽当たりが良くなったところではモチツツジが美しい花をたくさん咲かせるようになって、今年の初夏はみごとであった。また、陽当たりの良くなったところにはアカメガシワ、カラスザンショウ、タラノキ、キリなどの幼木がたくさん生えてきて、植生の変化が感じられる。

鳥観の丘から南西方向に平城宮跡の大極殿が望める。しかし、直ぐ先に背の高い竹があつて大極殿は半ばその陰になっていたし、また、丘のすぐ前に下向きの崖地があり、その中程に伐倒が困難な大きな松の枯木があつて、大変目障りになっていた。竹は里山グループの方の助力も得て除去し、松の枯木は自然に倒れたので眺望は素晴しくなった。



(写真は鳥観の丘の眺望)

ならやま虫だより

菊川 年明

**鳥シリーズ**

小田 久美子

◆昆虫の雌雄

今回は晩秋に見られる昆虫の中から雌雄の見分けが簡単なものを紹介させていただく。

*チョウ類

・ツマグロヒョウモン：翅の棲（端）に青みがかった黒い部分があるのでこの名があるが、棲の黒いのはメスで、オスにはこの部分がない。

*バッタ類

・ショウリョウバッタ：体長はメス約 80mm、オス約 45mm である。オスは体長が短いだけでなく、体形も細いので大変小さく見える。本種のメスは本邦産バッタの中で最も大きい。

・オンブバッタ：体長はメス約 40mm、オス約 20mm で、オスはメスの背中に乗っていることが多いのでこの名がある。小さい子供の多くはこれを見て親子だと思うようである。

・その他のバッタ：トノサマバッタなど他種のバ
 ッタも程度の差はあるが、いずれもメス大、オス小である。



【オンブバッタの雌雄】

*キリギリス・コオロギ類

ツクムシなどキリギリス類、コオロギ類は雌雄の体長はほぼ同じで、雌雄がはっきりわかるのは、オスの翅が鑊（やすり）状の発音器になっていることと、メスは尻の先端に長い産卵管を持つことで、一目瞭然である。

*トンボ類

・シオカラトンボ：オスは白っぽい青色、メスは黄褐色でムギワラトンボとも呼ばれる。オスも羽化直後はメス同様の色彩であるが、成熟すると変化する。トンボ類には雌雄で体色を異にするものが多い。

放鳥コウノトリ 全都道府県で確認

2017/8/13 毎日新聞から

【兵庫県豊岡市の県立コウノトリの郷公園は 12 日、47 都道府県でコウノトリの飛来を確認したと発表した。唯一、未確認だった秋田県仙北市で 11 日午前、雌のコウノトリ 1 羽確認。千葉県野田市の飼育施設で育ち、一昨年 7 月放鳥されたものだという】という記事を見ました。

日本のコウノトリは、1971 年に野生最後の 1 羽が死んで日本の空から姿を消しました。最後の生息地豊岡では、半世紀にわたるコウノトリ野生復帰の取り組みが続けられています。

2001 年ビオトープに取り組み、豊かな生物の棲息空間が確保出来るとサギ・カモなどの水鳥が見られるようになり、翌 2002 年、31 年振りに野生のコウノトリが飛来しました。

秋篠宮様が放鳥される映像や、人口の巣での子育てのニュースもあり人々の関心も高まりました。足環を付けた個体が全国で目撃され、奈良県では、一昨年初めて奈良市広大寺池で 1 羽確認されたあと、昨年と今年は複数の場所で確認されています。今年は、勝田さんの写真が報道されたことは皆さんもご存知と思います。



【撮影：勝田氏】

欧州では赤ちゃんを運んで来る鳥として、昔から人々に近い鳥でした。日本でも田畑で当たり前に見られましたが、明治期の銃による乱獲や、農薬の使用により減少に拍車をかけてしまいました。

極東に棲むコウノトリは 2000～3000 羽しかない絶滅寸前の鳥です。「種」の保護と野生復帰は国際的にも重要なプロジェクトとして、豊岡の成果に期待が寄せられています。

2012/2 月号で東日本震災後、北海道のタンチョウ・兵庫のコウノトリが来て餌を啄んでいると書きました。ガンやトキ・コウノトリ・丹頂たちが全国で普通に見られる日が来るといいですね。

自然教室だより

『矢田丘陵自然観察会』実施報告

倉田 晃

秋晴れの9月19日 10人の参加者が集い、御宮知講師の指導のもと楽しい観察会をしました。

大和民俗公園をスタートしてすぐキバナコスモスがあり、花の仕組みやタネの姿など講師の話を聞きながらじっくり観察しました。普段からよく目にする花ですが、へえ〜とびっくりするような内容でした。

それからが大変です。こちらの花、あちらの花と尋ね歩き、なんと100種類以上の花を眺めて歩き、メモを取るのが大変でした。私にはアメリカミズキンバイ、アキノノゲシ、ツリガネニンジン、サワヒヨドリ、ネコハギ、ゲンノショウコ、ヒガンバナなどが印象に残りました。

参加者は殆どが素人レベルですが、講師は花を実際に分解してその特徴を解説したり、いくつかの似た種類を並べて比較したり、体系上の特徴を実例で分かりやすく解説したりと、さまざまな工夫をして私たちの理解促進を図ってくれました。

また、質問大歓迎ということで、参加者からも様々な質問が投げかけられ、それに対して分かりやすく丁寧な回答をいただくことができ、参加者としては満足を覚えました。

当日は植物の観察だけではなく、参加者それぞれが小さいころから親しんだいろいろな自然遊びを紹介しあい、童心に帰って楽しみました。ヒガンバナの提灯、蚊帳ツリ、ネコジャラシのにぎにぎ、クズの葉のポン、笹船や笹飴作りなどで。会員の皆さんもならやまでしてみませんか。

参加者一同十分満足できた楽しい観察会で、できることならば毎年継続して実施できるとよいなと思いました。



私のふるさと

ふるさと遠く

青木 幸子

私のふるさとは「読めない！書けない！どこにある？」で有名な？？宍粟市です。「日本の珍地名」で難読・誤読地名番付の「西の横綱」にされました。因みに東の横綱は千葉県のしろうさ匝瑳市だそうです。「あなぐり」とか「ししぐり」と読まれたり、漢字表記でも「穴栗」「宍栗」と間違われたりさんざんです。宍粟の名称は市の中心部に残っている地名、しかざわ鹿沢を昔は「ししさわ」と読んだことに由来するとのこと。「ししさわ→ししあわ→しさわ→しろうさ」と変化し「ししあわ」に「宍栗」の漢字が当てられたとのこと。

場所は兵庫県の中西部、姫路市から約30kmに位置し、西は岡山県、北は鳥取県に接しています。2005年に宍粟郡の4町が合併して市になりましたが、面積658.54 km²に対して総人口36,568人(2017.5月)大部分が山地のため人口密度は低く少子高齢化の過疎地です。その4町の中の「千種町」がわがふるさとです。

奈良時代に編纂された播磨国風土記に「敷草村、敷草為神座故曰敷草」と記され、古くは神々が腰を下ろす場を意味する「敷草村」と呼ばれていました。中学校校歌に「日名倉ひなぐらは天にほほえみ敷草は地にささやきて・・・」とあり今も後輩の中学生たちが歌っています。

千種町岩野辺に、たたらかなやごのかみの神様である「金屋子神」が天から舞い降りたという伝説が残っています。古来より千種鉄の生産地として有名で、今もたたら製鉄所跡が残っています。

山奥の小さな田舎町にも歴史はありますね。



荒尾鉄山跡



神が舞い降りたという所



10月・月例一泊研修旅行**高知・牧野植物園**

小島 武雄

10月10日(火)、「高知県立牧野植物園・桂浜・大歩危・祖谷のかずら橋の自然に触れる」研修旅行は、晴天に恵まれ朝8時、大和西大寺駅を28名でいつもの生駒交通サロンバスにて出発しました。淡路ハイウェイオアシスPAまで、会長挨拶、時間当てクイズ、長時間のバス移動ですので、頭の体操とんちクイズ、高知県のビデオなどを見て時間を忘れ、吉野川沿いのレストランに到着。昼食は川魚の名物料理、ただ、昼頃には真夏並みの気温になり、熱い暑い鍋昼食。



その後大歩危溪流沿いで休憩、吉野川の溪流と木々の緑に癒され、かずら橋へ向かい到着は13時33分。秘境と云われたかずら橋も今は観光地でした。しかし、かずら橋を渡るとゆらゆらスリル満

点、橋の下にはキラキラまばゆい清流が。シュウカイドウの咲く道を歩き、すぐの琵琶の滝はマイナスイオンいっぱい、やっと生き返りました。水しぶきのかかる中ワイワイと記念撮影後、次の杉の大杉まで曲がりくねった国道を走ること1時間15分。この杉は日本一とか、幹回り20m、高さ60mの天然記念物、高すぎて実感わからず次へ。高知市内では、おどろおどろしい「絵金蔵」を見てのち、高木酒造で待望の試飲タイム。気分も高まり、本日の宿舎「国民宿舎桂浜荘」に予定時間ぴったり到着。



太平洋の一望できる温泉で休息後、宴会場で懇親会を行いました。翌日は、早朝から思い思いに美しい五色砂の桂浜散策。太平洋を見つめる龍馬像を仰いで胸を高鳴らせ、奈良では絶対見ることができない雄大な海の日出を楽しみ、朝食はコンロで炙った小魚を美味しくいただきました。

いよいよ待望の牧野富太郎植物園。とても広い園内は、出迎えてくれた水草博士の学芸員の山ノ内さんの優しい説明で、植物園ゆかりの固有植物が集められた、生き生きとした土佐の植物生態園には、びっしりと細かく書き込まれた銘板が、それこそ草木一本一本ごとに付けられていて驚く。何を聞いても即座に解りやすく説明してくださることに嬉しくなりました。牧野富太郎先生の、ヒツジグサ(スイレン)が、羊の刻(午後2時頃)



に開くことを、実際にいつ咲くのか確認するため、先生は京都の巨椋池で朝から船に乗って熱中症になりかけたことなどを話していただきました。約2時間の観察でしたが、広い園内は半分ぐらいしか回れません。季節外れの暑さで体には応えましたが、満足感あり、是非また来たいと思う植物園でした。

途中のバスの中では、各ポイントごとに到着前に説明がなされ、十分な予備知識を得られたのが良かった。時間が足りなくなり残念ながら高知城は車窓のみになりました。バスは、途中の休憩ポイント、脇町(うだつの町)藍染の集散地で、伝統的な町並み保存地区を散策のあと帰路へ。バス中では、いつものビンゴゲームで、皆様の手づくり品を手で大盛り上がりで、奈良西大寺駅18時40分に到着。強行軍でしたが、程よい疲れと満足感でした。



研修旅行に参加の皆様ありがとうございました。

ならやま茶論

「邪魔もまた・・・」

竹本 雅昭

翁：おいおい、ちょっと他のことやってる間にようけ生えて困りまんな。

ヒレタゴボウ：何か悪いことしましたやろか。

翁：年末迄にはレンコン圃場にと草取りして置いたのに・・・全く世話のやける。

ヒレタゴボウ：せっかく黄色のかわいゝ花を咲かしてますのでもう少し待ってもらえませんか。お願いします。

翁：あかんあかん、もう。寒ならん中にドロコ仕事済ませたいからな。

ヌマガエル：お邪魔します旦那はん。早よその草どんどん抜いとくはなれな。

翁：何しとん、2匹も3匹も同じ出目面してなんやねん。邪魔やがな。

ヌマガエル：えらいすんまへん、根っこの下にうまいミミズがよくいますねん。えへへ我々には逃せぬチャンスでね。

翁：厚かましい奴や、鰍で命おとしても知らんぞ。

ヌマガエル：へっ、大丈夫で、あつしらは目がえゝし得意のジャンプでOKです。

翁：ふん勝手にしなはれ、ほないくぞ。

ヌマガエル：あのう・・・来年こゝへ産卵してもよろしいでしょうか。

翁：黙ってゝもするくせに、あんたらと共にこの湿地帯を楽園にせんならんしな。

～終～



癒しの散歩道

若き日の随想

谷川 萬太郎

奏でるは小さな秋のトレモロ

(1) 淡く儚く消える秋の虹追いかけて

見上げる雨上がりの空と白い雲よ
 明るい笑顔が輪になって広がるように
 爽やかな風そっと優しく微笑んだ
 麗しきその景色に酔いしれながら
 我を包むその清しき心の故郷よ
 この小さな幸せを明日へと繋ごう
 あの果てしない青空の向こうへ繋ごう

あゝ我らと共に今日の喜びを手に
 暖かな心で互いに支え合おう皆で
 きっときっと楽しくなれるから
 小さな秋を奏でるトレモロの調べよ

(2) 茜色に染まる秋の姿追いかけて

黄金色の木立の中で足を踏みしめ
 絵のような景色に酔いしれながら
 我を包むその静けさに時が止まる
 爽やかな風に散り染めし木の葉よ
 静かにそっと耳元に囁きかける
 この小さな幸せを明日へと繋ごう
 あの果てしない青空の向こうへ繋ごう

あゝ我らと共に今日の喜びを手に
 暖かな心で互いに助け合おう皆で
 きっときっと楽しくなれるから
 小さな秋を奏でるトレモロの調べよ

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

11月	2 (木)	9 (木)	16 (木)
	23 (木)	30 (木)	
12月	7 (木)	14 (木)	21 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 ha の里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統

8:28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統

8:36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

里山

11/2 「協働作業」松林の土掻き

9 16 アダプトプログラム

里山林の枯死木伐倒・枝整理

植樹付近の下草刈り／薪割り・薪棚の作成

林野庁関連里山林調査

23 30

楢木用里山林伐採／植樹付近の下草刈り

薪割り／里山林調査 アダプトP



エコファーム

11/2 「協働作業」松林の土掻き・アダプトP

タマネギ、エンドウ、畑畝作り

大根（YR くらま青首）追肥

果樹：施肥、カキ、ブルーベリーなど

そば：そば収穫作業（予備日 11/3 金）

9 いちご定植、タマネギ植え付け／エンドウ、
スナックエンドウ、ツタンカーメン、一寸そら豆
播種／ そば：そば脱穀作業

16 唐辛子、ピーマン、畑耕転／チップ入れ、
ボカシ肥料作り／ 果樹：選定、柑橘類

そば：整理乾燥

23 カボチャ畑の土地改良／チップ入れ、ボカ
シ肥料作り／ そば：そば畑の清掃

30 冬野菜など収穫／チップ入れ

そば：新そば祭り（予備日 12/1 金）

景観

11/2 「協働作業」松林の土掻き・アダプトP

整備：協働作業／そば収穫（刈り取り）作業

ビオ：西池生物調査

花：レンゲ種蒔き、ギボウシ植え替え

9 整備：実りの森草刈り／ビオ：西池の整備

花：フェンス際の草取り／ギボウシ植え替え

16 整備：BC 周辺草刈り整備

ビオ：西池の整備

花：入口花壇の草取り整備／半夏生撤去

23 整備：彩の森草刈り整備

ビオ：西池生物調査

花：ビオラ植え替え（階段横）／山野草草取り

30 整備：新そば祭り手伝い

ビオ：西池の整備

花：山野草園草取り整備／花壇木枠取り換え

パトロール

11/2 「協働作業」松林の土掻き・アダプトP

観察路の笹刈り／丸太階段補修

観察コースの点検／花壇整備

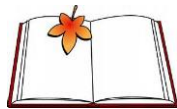
9 観察路の笹刈り／丸太階段補修

16 観察路の笹刈り（全員）／丸太階段補修

23 観察路の笹刈り／丸太階段補修（全員）

30 観察路の笹刈り（全員）／丸太階段補修

行事案内 part 1



1 1月・歴史文化クラブ研修会ご案内

「飛鳥」

～ 東漢氏の史跡を訪ねて飛鳥を歩く～

東漢氏は5世紀にきた渡来人で、飛鳥を拠点として活躍した。秦氏と並ぶ豪族であるが、蘇我氏の軍事部門として活躍し、乙巳の変の後にも勢力を保ち活躍した。



始祖阿智使主を祭る於美阿志神社は、古代寺院・檜隈寺跡で十三重の石塔が見られます。

更に、壁画で有名な高松塚古墳（壁画館）やキトラ古墳（四神の館）では、再現された美しい壁画を鑑賞します。

秋の七草の咲く飛鳥の原風景を満喫できるでしょう。（お花解説が楽しみです）

- 1 日時： 11月14日（火）
奈良北部の降水確率が60%以上の時は中止
- 2 集合： 近鉄 飛鳥駅 AM 9:40
西大寺 8:38（急行） → 橿原神宮前 9:11
橿原神宮前 9:31 → 飛鳥 9:35
- 3 参加費：無料
- 4 コース：（全行程徒歩）
飛鳥駅 → 中尾山古墳 → 休憩所（講義）
→ 高松塚古墳（高松塚壁画館）
→ キトラ古墳（四神の館） → 壺阪山駅
- * 平坦なコースで、約5kmを歩きます。
多数のご参加をお待ちいたします。
- * 飲み物、昼食のお弁当をご持参下さい。
- 5 申し込みは不要です。
お問い合わせ：事務局 古川 祐司まで

（担当世話人： 古川・坂東）

1 1月・自然教室チーム観察会のご案内

～秋の奈良公園 紅葉観察～

春には桜を中心の観察会を、9月には誕生した鹿の赤ちゃんの見学を含む植物の観察会を、奈良公園で実施しました。今回は同じく奈良公園の紅葉した草木を訪ねて巡ります。

モミジはもちろんのこと、ナンキンハゼやサクラ、イチョウの紅葉が楽しめます。奈良公園には鹿に食べられてしまうため、小さくちいさくなって咲いている野の花も意外にたくさんあることに驚かされます。11月の興福寺や春日大社、東大寺の周辺ではどんな草木の秋色を楽しめるのでしょうか。葉が色づく仕組みや、いろいろなモミジの見分け方などを学びながら、そして時には銀杏を拾いながら、お互いに教え合う楽しい観察会にしたいと考えています。多くの方の参加をお待ちしております。



昨年の観察会で拾った紅葉した葉

<実施要領>

- 1：年月日・平成29年11月27日（月）
- 2：集合場所・近鉄奈良駅前 行基像前
- 3：集合時間・10時
- 4：散会時間・3時ごろ
- 5：持ち物・弁当、飲み物、雨具、（あれば）ルーペ、図鑑など
- *実施の有無はならやまでの活動日の申し合わせに同じ

担当：自然教室チーム 山本美智子 桜木晴代

行事案内 part 2



第8回新蕎麦祭り ご案内

秋が深まってまいりました。いよいよ新蕎麦のシーズンの到来です。今年は開花時期に雨が続き、作柄が懸念されますが、ならやまの蕎麦畑は、11月2日に刈取りを行います。その後、乾燥・脱穀・選別・製粉の過程を経て、そば通の待ち焦がれる新そばの誕生です。

さて、恒例の新蕎麦祭りは、11月30日に実施します。手塩にかけた蕎麦粉を、



そば文化クラブの面々が腕によりをかけて打ち上げます。「ならやま庵」自慢の「挽き立て、打ち立て、湯がきたて」の新蕎麦の味を堪能していただきます。

当日は、それ以外に「蕎麦粥」、「蕎麦シェーク」などのメニューもご紹介します。錦秋の秋空のもとでの「新蕎麦祭り」を存分にお楽しみください。

「新蕎麦や打ち手それぞれ一家言」

《実施要領》

日 時：11月30日(木)

蕎麦打ち：11：30より蕎麦打ちデモ

食事開始：12：00～

参加料：300円

お持帰り：1パック500円(数量限定)

その他：お椀、箸をご持参ください。



歴史文化クラブ 12 月度研修会 (予告)

歴文 12 月の研修会は、例年通り地元の歴史の探訪と座学を実施いたします。午前中は平城宮西方の菅原町一帯の史跡を歩きます。午後は、奈良文化財研究所で、資料館の見学と講義を予定しています。

①日程：12月17日(日)

・午前の部(現地踏査)

喜光寺、菅原神社、埴輪竈跡、西大寺、垂仁天皇陵など

・午後の部(見学と講義)

13時から資料館見学

14時から講義

講師：奈文研副所長 渡辺 晃宏氏

・詳細計画は、12月会報に掲載いたします。

②照会先

事務局：古川祐司

12月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

12月7日 協働作業の日

松茸山土掻き・アダプトプログラム

12月7日 芋煮会 雨→14日

*月例研修会

12月12日(火) 斑鳩三塔を巡る 雨 → 中止

法隆寺・法起寺・法輪寺

12月12日(火) 忘年会 雨 → 実施

*自然教室

12月25日(月) 冬の奈良公園とムササビ観察

※12月5日(火) シニア自然大学校発表会

環境保全活動発表会と公開講座

◆ 申し合わせ ◆

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日 19 時前の NHK の天気予報で、当該地域の午前の降水確率が 60% 以上の場合、中止とします。

*通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。
(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)

*臨時活動日を月曜日にする事があります。
(事前に担当役員から連絡します。)

(1名減、1名入会、3名会費未納で退会予定)

Ⅲ 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

◆ 準天頂衛星「みちびき」

10月10日、“日本版GPS”を
構築する人工衛星「みちびき」4

号機が予定通り打ち上げられまし

た。既に打ち上げ済みの1～3号機とあわせ、来年度から本格運用を始める計画です。

誤差6センチ以内という世界最高レベルの精度での位置測定が、常時できる体制を整えられ、GPSを利用した色々なサービスで、便利な時代の始まりを予感します。

カーナビゲーションは更に精度が向上し、トラックターの自動運転や小型無人機「ドローン」を使った配達など、様々な分野での活用が期待されます。今後、安全保障分野での利用も検討される見通しのようです。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第190号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末 一

URL : <http://www.naranature.com>

編集者代表：坂東久平

6. アダプトプログラム助成金認可

助成金利用計画と啓発看板の設置予定

コアメンバーで助成金申請、具体案を検討

8. 川井秀夫さん「偲ぶ会」

10月28日17時から「リガーレ春日野」にて

① ネイチャーなら 11 月号編集内容確認

事務局の体制について検討

以上

次回幹事会は 10/31(火)午後 2 時中部公民館